



# The Royal Photographic Society

Patron: Her Majesty The Queen. Incorporated by Royal Charter

## NEWS LETTER

### 第15号 2009/04/27

発行所 英国王立写真協会・日本支部

〒107-0051

東京都港区元赤坂1-7-10

元赤坂ビル9F

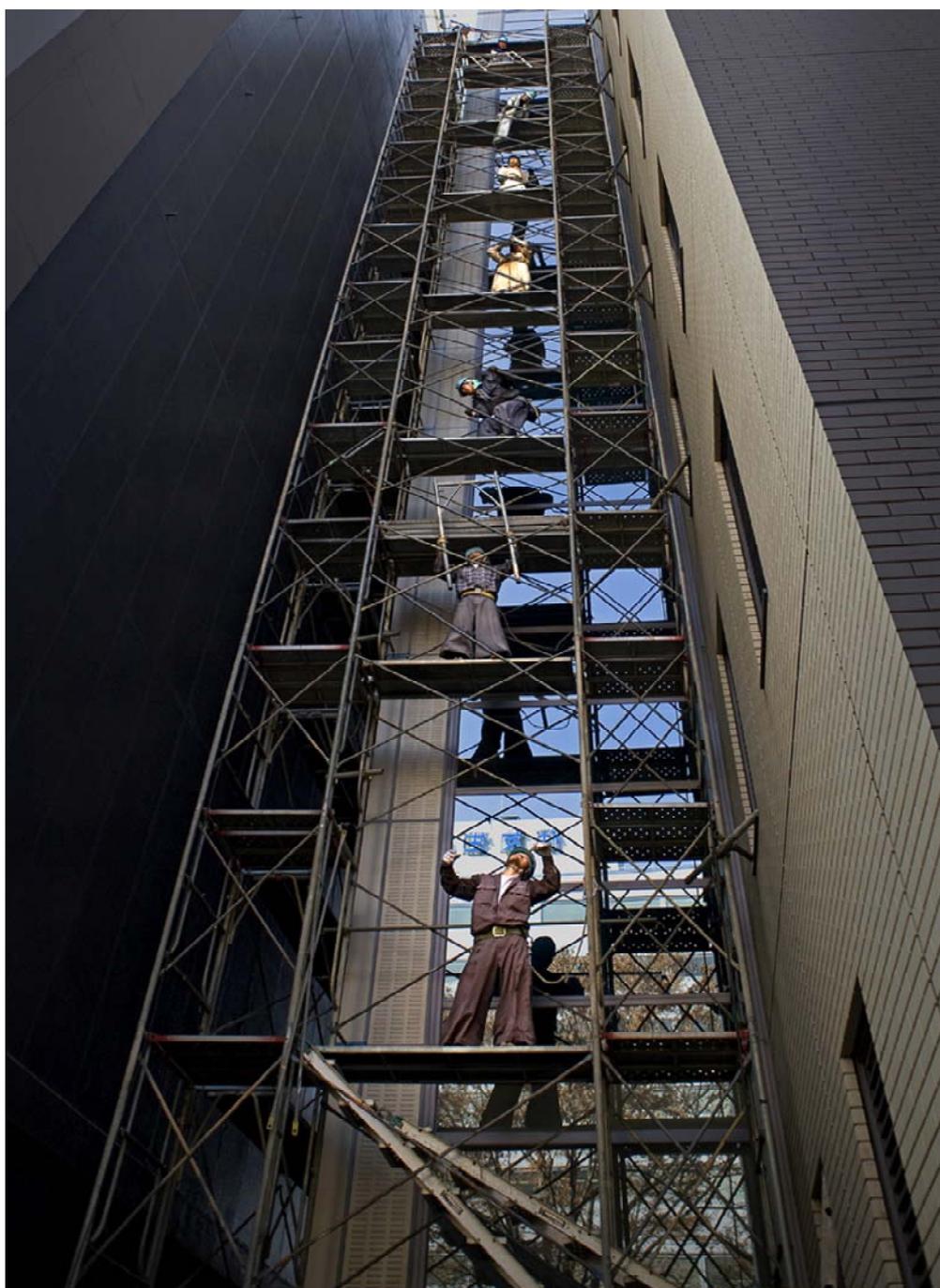
Tel 03-5413-7829

Fax 03-5413-7410

E-mail : yoshi-rpsj@hotmail.co.jp

発行人 大野隆司 編集人 川村賢一

<http://www.rps-japan.org>



## RPS展 入賞!

第152回  
国際プリント写真展

日本支部の林喜一会員が、今回みごとスポンサー特別賞に入賞しました。

今回の特別賞対象テーマは、「The New Horizon」(新たな展望)でしたが、この「建設現場」という作品が審査員の心を捉えました。

毎回素晴らしい作品で入選している林会員ですが、主要タイトル受賞者として、152年の歴史に、みごと日本人として名を刻んだこととなります。

支部会員にとっても大変励みになるものとして、おおいに賞賛したいと思います。

(今後も本部写真展へのグループ参加を推し進めたいと思いますので、ふるってご参加下さい。)



## 第152回 R P S 国際プリント写真展 に応募して

林 喜一

3月11日に王立写真協会からメールにて入賞通知が届きました。私は友人の絵画展を見ていた時ですから、まさか？と思いきや事務所に電話してみると、今度は間違いないようですので、安心しました。

この写真は、昨年秋に静岡県での写真展を見に行く途中で、工事現場を通り過ぎようとした時にふと目にとまった珍しい光景に思わず立ち止まり、警備の方の許可を得て、早速撮影しました。

下からニコンD 700にf 2.8、20 mmの単レンズで狙い、ISO: 200、WB: オート、絞りf 4.0、シャッター1/400、JPGフォーマットで6枚撮りました。

工事資材を上から下に降ろす作業を初めて見た私は、とても新鮮な気持ちで撮りました。

画像処理はiMAC、ソフトはフォトショップCS2で、建物を暗めに人物を明るめの表現し、色調も多少抑え気味にしてあります。

応募したプリントは、プリンターがエプソンPX-5800で、用紙はエプソン写真用紙です。

これからもかかわったコンテストは継続して応募して行きたいと考えていますので、会員の皆様のご指導をよろしくお願い致します。

ありがとうございました。

### 今後のR P S J活動について

#### ① 親睦「写真撮影会」をやりましょう！

会員の親睦を兼ねた撮影会を企画します。  
6月にあじさい寺「本土寺」を検討中です。

#### ② R P S J会員による「リレートークの会」を始めます。

第1回は、林会員のR P S本部写真展入賞記念として海外での撮影秘話など、写真とトークの会を予定しています。

以降は、会員それぞれが、得意分野などそれぞれのテーマで写真とトークの会をリレーで担当していきます。

詳細は追ってお知らせします。ふるってご参加を！

今後も新企画で、活動の幅を広げていきます。  
R P S Jは会員によるボランティアな団体です。  
みなさんの積極的参加により、活動をいっそう充実していきたいですね。

(川村)

### ■新入会員の紹介

水草 紘明 (みずくさ ひろあき)

東京都在住

写真暦：5年

活動内容/受賞歴：

ゲームデザイナー/エンターブレイン社発行「ファミ通」  
プラチナ賞受賞(2回) ブロンズ賞(1回) 殿堂入り(2回)  
職業：会社経営  
興味のあるテーマ/分野：水草の09年テーマ「街～平成～」  
特技：専門学校専任講師

(アミューズメントメディア総合学院)

#### ●写真右ページ上より

「茜差す」：カメラを手にして、まず写したのは自宅の周り

「夜光虫」：イルミネーション。CG的な画面

「青海波」：実際は、そのように見える駅ビルの階段

#### 《1枚の写真》

メディア

### 写真は媒体

～ 写真が結ぶ「ひと」と「ひと」～



本村 政治

数年前有楽町でRPS写真展が開催された。その時「この写真の撮影者にお会いしたい」とメモが残されていて、後日お会いして、展示していた写真を差し上げたことがあった。

「加山英利子です」と名乗られた。その後、京都の「祇園祭り」のテレホンカードが送られて来た。

作者は「加山又造」画伯だった。加山英利子さんは加山又造画伯のご子息に嫁いでおられた。

英利子さんも日本画家であり、展示会のお誘いを受けて度々、作品を鑑賞する様になった。英利子さんは加山又造画伯のモデルも勤められていたことも分かった。

不思議なもので、一枚の写真が取り持つ縁で、その後もお付き合いが続いている。

## デジタル × Digital

～ピットの世界からカメラへ～



水草 紘明

さて。本の生業を『ゲームクリエイター』とする私がカメラの道に足を踏み入れたのは、やはりその仕事を通してのことでした。

ビデオゲーム（コンピューターゲーム）を余りご存じでない方は、「ゲームとカメラに、そんなに関係性があるのか？」と思われるかも知れません。

近年、ビデオゲームは平面的な表現から3D（立体表現）へと移行し、ゲームクリエイターには三次元での空間表現能力が更に求められるようになりました。その中でより効果的に画面を演出するために『カメラアングル』や『レンズ』を意識する必要性が発生しました。

アニメーション業界では『攻殻機動隊』『イノセンス』等で著名な押井守氏が、カメラを非常に意識した作画を行い、高い評価を海外で得たのは記憶に新しいところです。

ビデオゲームの世界でも、仮想世界を描写する故に高度な描画アプローチを模索しだし、その中で『非現実』でありながら効果的且つ違和感を与えない『現実のカメラワーク』を考えていく必要に迫られているのです（現時点においても。）

そのスキルを得るために最も効率的であったのが、『自ら写真を撮ってみる』ということだったのです。

まず私が本格的にカメラを手にして始めたことは、『ものをよく見る』ということでした。

普段は何気なく通り過ぎていた自宅から駐車場までの道を、アスファルトから落ちているゴミ・人家の植木・電線から空...と、よくよく観察するようになりました。

まるで自分の目をカメラにするような感覚で、同じものをいろいろな角度から見てみる...それこそ、立ったりしゃがんだり、這いつくばったり...。そして、そのものの一番『生きる』であろうポイントを考え、探し出す。

このような試みを繰り返すうち、アングル・レンズ・光...といった写真撮影に欠かせないポイントの追求こそが、今までのゲーム制作現場において（業界全体の意識・自身のスキル共に）絶対的に不足していたのだということを、ますます身をもって感じました。

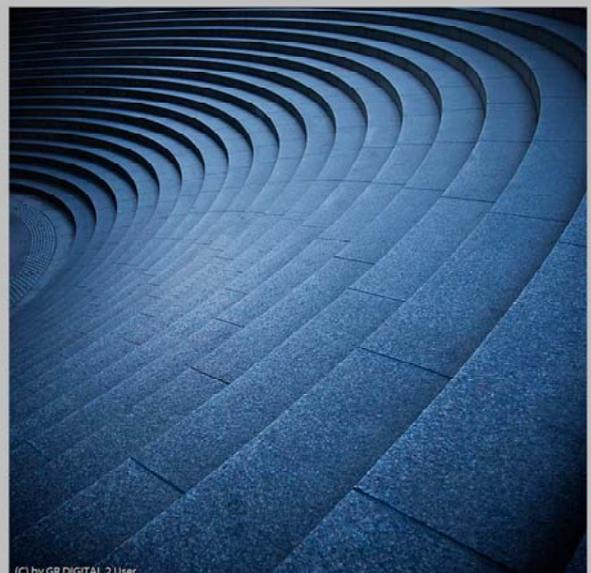
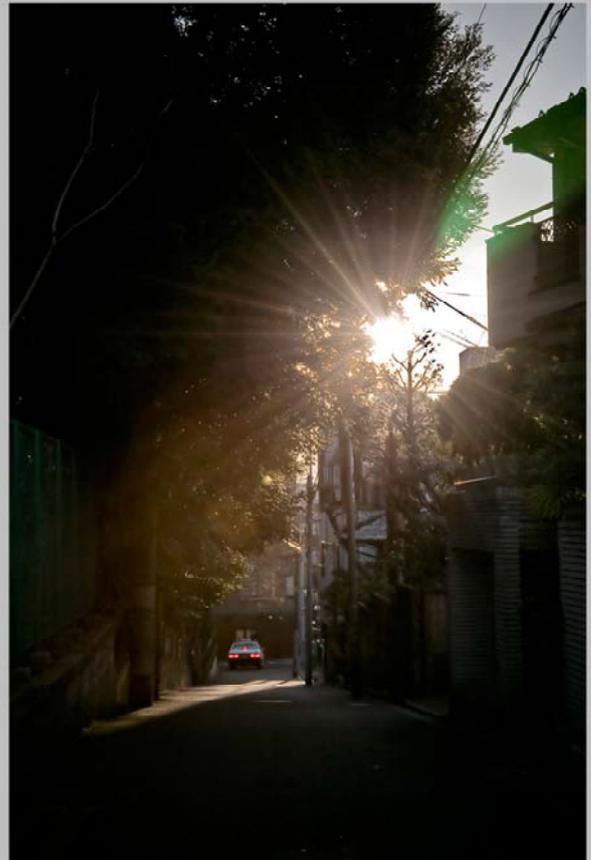
『ゲーム』と『写真』とでは、動画と静止画・バーチャルとリアルという点において違いはありますが、限られたスペース（画面であったり、用紙であったり）の中で、それを見る人々に「ここだ!」という部分をその意識に焼き付けるためにはどうしたら良いのか...と模索する姿勢は同じ物だと思います。

また更に、近年のビデオゲームになればなるほど（またこの先においても）三次元をよりリアルに二次元に落とし込もうとする意識は強く、それはやはり写真家が被写体に向かう心境と同じであるべきだと思います。

まずは『リアル』を知ること。

...と、難しく考えてはみたものの、毎度純粋にその奥深さに驚嘆しつつ、ファインダーを覗いている次第です。

その1枚1枚が、バーチャルとリアルの距離を縮める1歩になれば、なおよろし、と。



## 紙上写真展

～RPS本部写真展応募作品より～



Attend School in Blizzard (上田頼人)



Talking Skiers (上田頼人)



(本村政治)



(本村政治)

### 第17回 伊豆高原アートフェスティバル 木了俊介写真展のお知らせ

RPS J展にて毎回個性的な作品を見せてくれる「水の写真家」木了俊介のホームグラウンドでの写真展です。

日時：2009年5月1日(金)～5月31日(日)  
10:00 AM～17:00 PM

場所：ホテル アンビエント伊豆高原 2Fロビー  
伊東市大室高原3-490  
0557-51-1666



(編集後記) 活動に対するアイデア、ニュースレターへの原稿、情報提供など、ご協力よろしくお願い致します。  
新企画など、気軽にお寄せ下さい。

(川村)